

プログラムを用いた組織切片上での成分間距離計測と成分間相互作用の推定

研究キーワード

組織学、病理組織学、外科病理学、分子生物学、腫瘍生物学、FFPE、免疫染色、FISH、Python

研究概要

卵巣未熟奇形腫は成熟組織・未熟組織が混在して腫瘍を形成する。始原生殖細胞由来の病変だという説が有力であるが、腫瘍発生については明らかではない。令和6年度のSA学生には、「未熟奇形腫の成分間に誘導などといった相互作用があるのではないか」という仮説で研究を行ってもらった。結果、いくつかの組織成分が有意に近いことが分かった。今後プロテオーム解析などを行い、要素間の相互作用に関わる物質の同定を行う予定である。

この研究に携わってもらうことは可能である。また、方法論自体が確立されたため、別の組織や種々のがん腫で同様の解析を行うことも可能である。講座内でのFISH法の技術が確立されつつあり、精度向上と病理診断・研究への応用を目指している。そのような技術の習得も可能である。

SA学生さんへのアピールポイント

当講座は基礎医学の講座になりますが、スタッフは病理専門医ないし専攻医として、病理診断業務や病理解剖業務も行っています。興味があれば病理診断や病理解剖に携わってもらうことも可能です。令和6年度のSAでの研究内容は、病理学会総会で発表予定で、国際学術誌への投稿も視野にいれています。そのような熱意のある学生さんは大歓迎です。病理学は非常に裾野の広い学問で、SA学生さんの興味・関心に合わせて、研究内容を相談できればと思っています。SA学生さんのご応募を心よりお待ちしております。

※お問い合わせは、器官病態学講座 小山 慧まで
電話：018-884-6064 E-mail：kkoyama@gipc.akita-u.ac.jp

